

# 自由意見抜粋：利用者

## ■量の拡充

- ・兄弟の一時預かり、託児サービスの充実
- ・緊急時に予約なしでも対応してくれる施設
- ・親のリフレッシュでも利用可能な託児所
- ・警報発令時も利用可能な学童保育
- ・里帰り中の保育園利用
- ・出産時宿泊可能な託児所
- ・実家のサポート受けられない人向けに、1か月間滞在できる施設
- ・18時以降の預け先
- ・ファミサポは登録者の詳細がわからないため、登録に抵抗がある

## ■質の充実

- メンタル支援  
子育てセミナー  
相談所の充実  
交流の場など
- ・家事代行サービス  
(特につわり時と産後数か月)
- ・検診費、保育料、医療費等の補助
- ・職場環境の改善  
(職場の理解が得られず大変だった、離職せず  
にすむ職場、子どものことで仕事休みづら  
い、経済的に困窮しても育児と仕事の両立で  
きる社会ではない、バイトやパートにも産休育  
休制度、在宅ワーク、夫への配慮など)
- ・父親教室
- ・予防接種、離乳食の情報がわかりづらい

## ■その他意見

- 保護者支援  
養育力支援  
早い段階で育児のことや心構えを教えてほしい  
出産前に赤ちゃんと接する機会ほしい  
産後体力が落ち、市役所の手続きが大変だった  
体験談などをもっと市民に伝えてほしい  
保健師訪問は非常に心強かった
- ・職員の対応力を向上してほしい
- ・妊婦専用の駐車場
- ・産後の手厚い支援(特に、核家族のサポート)
- ・子どもたちがもっと大人と接する機会
- ・知的障がい者の支援と理解
- ・親が心から良かったと実感できる支援を望む

# 自由意見抜粋：事業者

## （懐疑的意見）

- ・「将来を担う子どもの健全育成は、日本の豊かな繁栄や存続に関わる重大なこととして新制度の導入をする。」という国の捉え方に対しての思いは同じでも、学識者が集まり机上で文章を組み立てても、それは、現状との隔たりが多く、合致していないと感じる。
- ・子どもの支援ではなく、保護者のみの支援に思える。
- ・この制度が本当に子どもの育ちを大切にしているのかどうか、育児支援の領域に疑問を感じる。
- ・その場しのぎの待機児童対策ではなく、保育環境・量的拡充よりも質の改善が大事なのではないか。
- ・待機児童解消だけの新システムなのか？すべての子どもにまんべんなく支援するという意図はわかるが、そもそもなぜこのような制度改革が必要なのかよく理解できない。
- ・「教育の外」に「保育」があるという新制度の考え方は、子どもの生活や遊びの持つ教育的な意味合いを低く見ているのではないのか。

## （現場の状況）

- ・大変手間のかかる児童が増えている
- ・何らかのアレルギーをもった児童が増えている
- ・保護者からの要望が多様化し、応じきれない
- ・園からの情報発信・プリント等見ない親もいる など

「なぜこのような状況が生まれたのか!？」

## （現場の声から取り組むべき事項）

- 1 『養育力向上のための保護者支援』
- 2 『保育士確保』
- 3 『事務負担の軽減』と『運営支援』